

すべてのひとの健康と幸福を実現するために

JPTA NEWS

2026.04 ナンバー360

特集 臨床から始める学術ステップアップ

ハッシュタグ キューアンドエー、一步を踏み出すメッセージ、研究紹介

第1回日本理学療法学会連合学術総会のご案内

会報誌「JPTA NEWS」へのご意見・ご感想を募集しています。

以下のアンケートフォームからご回答ください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScb633xi4wWCndgVJPvryAYboNX6lf2NJEj>

[W3jws8tjPKi5Qg/viewform?usp=dialog](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScb633xi4wWCndgVJPvryAYboNX6lf2NJEj/W3jws8tjPKi5Qg/viewform?usp=dialog)

内容

| | |
|----------------------------|----|
| 2 ページ | 3 |
| 臨床から始める学術ステップアップ | 3 |
| にゆう職 まずは臨床技術を磨こう！ | 3 |
| 先輩が使っているツールをご紹介！ | 4 |
| 3 ページ | 4 |
| 症例検討・報告 1つの症例にじっくり取り組む | 4 |
| 症例研究 症例のなかから規則性などを発見し、共有する | 5 |
| 4 ページ | 5 |
| 学会発表 成果を人に伝え、意見交換する | 5 |
| 学会参加 さまざまな研究に触れ、つながりを広げる | 6 |
| さらに研究へ取り組んでいきたいときは | 6 |
| 5 ページ | 7 |
| 研究してみたいPTからの質問に答えます！ | 7 |
| 協会の学術と学会連合の学術について | 7 |
| 6 ページ | 8 |
| 臨床で働きながら、一步を踏み出す | 8 |
| 学会参加 | 8 |
| 症例発表 | 8 |
| 7 ページ | 9 |
| 学会発表（ポスター） | 9 |
| 院への進学（仕事との両立） | 10 |

| | |
|---|----|
| 8 ページ | 10 |
| 研究のスペシャリストが選ぶ最先端の研究 | 10 |
| 運動器 | 11 |
| 循環器 | 11 |
| 管理 | 12 |
| 9 ページ | 12 |
| 神経 英語論文 | 12 |
| ビッグデータ 英語論文 | 13 |
| 学会・研究会の学術誌紹介 | 13 |
| 10 ページ | 14 |
| 第1回日本理学療法学会連合学術総会開催！！ | 14 |
| ■参加登録費 | 14 |
| ■事前参加登録受付（予定） | 15 |
| ■生涯学習制度の履修付与について | 15 |
| 日本理学療法学会連合とは | 16 |
| みどころ | 16 |
| 1つめの柱 これからの理学療法学の発展の礎を築くために、現時点での理学療法学 の定義を整える | 16 |
| 2つめの柱 学問の専門化に沿った最先端の研究成果を共有する | 16 |
| 大会長メッセージ | 17 |
| 12 ページ | 17 |
| トップメッセージ | 17 |
| 13 ページ | 18 |
| 新連載 未来のために！一人ひとりのアドボカシー活動 | 18 |
| 第1回リハ職の賃上げ | 19 |
| 未来を拓く！理学療法士と政治活動 | 19 |
| 14 ページ | 20 |
| 生涯現役 | 20 |
| コツコツ学ぼう！登録理学療法士 更新ポイント問題解答 | 21 |
| 15 ページ | 22 |
| INFORMATION | 22 |
| マイページのご利用について | 22 |
| 年会割引制度について | 22 |
| クラブオフ 今回のおすすめ！ | 23 |
| 協会運営に関するご案内 | 23 |
| 異動申請について | 23 |

| | |
|----------------------------------|----|
| 休会・復会・退会申請について..... | 24 |
| 16 ページ | 25 |
| HOT TOPICS..... | 25 |
| 重要 休会制度の運用変更について | 25 |
| 第 61 回日本理学療法学会研修大会 申込受付中！！ | 25 |
| 会員手帳を発行しました！ | 26 |
| アジア西太平洋（AWP）地区学会開催せまる | 26 |
| お悔やみ | 26 |

2 ページ

臨床から始める学術ステップアップ

理学療法士として働き始めると、まずは現場で日々、先輩スタッフに支えられながら患者さんや利用者さんと向き合うとともに、研修や勉強会など、教育を受ける立場で取り組むことが多いと思います。

ですが、その根拠を構築している学術にも目を向けていただきたいと、今回は「学術」を特集します。理学療法はエビデンスが大事！ ただ学ぶだけではなく、臨床家として技術を磨きながら、研究者としての自分も育ててみてください。

にゆう職 まずは臨床技術を磨こう！

患者さんや利用者さんと実際に接すると、わからないこと、悩むことだらけ！ でも、その臨床の経験が理学療法士の基盤を作っていきます。先輩の指導を受けて経験を積みながら、研修会や e ラーニング、書籍を通して知識を増やしていきましょう。

Q 何から勉強すればよいかわからない！

A 日々の業務に活用できるものや、自身の関心が高いものを選べば OK です。所属施設や都道府県理学療法士会主催の研修会など身近なところで開催されているものを、まずは活用してみましょう。時間・場所の融通がきく e ラーニングも便利です。先輩や同僚の口コミも参考になります。

生涯学習 前期研修の e ラーニングは、入会年 9 月以降に受講可能になります。

先輩が使っているツールをご紹介します！

知らない単語は、「病気がみえる」や「アトラス」などの基本的な図書。

技術的なことは、医学専門書の取り扱いが豊富な書店や図書館を利用、参加した勉強会の資料

クリニカルパス逸脱症例などの珍しい疾患は、学会で知りえた症例報告、文献検索ツール（J-Stage、Google Scholar、PubMed、メディカルオンライン、医学中央雑誌、PEDro）で調べた症例報告

学会連合が発行している ガイドライン や学術論文も活用しよう！

URL：<https://www.jspt.or.jp/guideline/2nd/>

3 ページ

症例検討・報告 1つの症例にじっくり取り組む

担当症例の特徴、診断、問題点、治療、効果などを詳細に記述します。

臨床実習の実施方法の変化に伴い、にゅう職後に初めて症例報告の機会を得る人も少なくありません。まずは先輩の症例報告の仕方を見て、どのようなものか把握しましょう。そのうえで、先輩に相談したり、アドバイスを受けながら、自分でも症例の整理に取り組んでみましょう。症例報告は部門内での共有から始まり、他職種とのチームカンファレンスでの検討へと広がっていきます。身近に相談できる先輩がいない場合は、個人情報に十分配慮したうえで、出身校の教員や研修会などを活用するのも一つの方法です。症例を整理し、他者（先輩・他職種）の意見も取り入れることで、患者さんや利用者さんの目標設定や治療の幅を広げることができ、自分のなかで判断の基準やアイデアが増えて臨床対応りよくが上がっていきます。

Q 論文が多すぎてわからない！自分が知りたいことにたどりつくには？

A 最近ではAIの発達がめざましく、ChatGPTやGeminiなどを活用して対話型で絞り込んでいく人も増えています。ただし、情報が正しいとは限らないので、自分自身で確認することが大事です。AIはあくまで調べるきっかけや整理の補助として活用し、最終的な判断は論文や信頼できる資料で確認するようにしましょう。

Q いざやってみようと思っても自信がなくて足踏みしてしまう…

A 誰でも最初は初心者です。先輩などから学ぶのがもっとも実践的なので、どんどん質問してサポートを受けましょう。個人情報に十分配慮したうえで、出身校の教員に相談したり、研修会などを活用するのも一つの方法です。取り組むうちに自信を持って症例に向き合えるようになります。

生涯学習 生涯学習前期研修カリキュラム B「理学療法の研究方法論」「統計方法論」「症例報告・発表の仕方」が活用できます。

症例研究 症例のなかから規則性などを発見し、共有する

症例報告の内容に文献考察などを加え、他の症例報告との比較や、種々の考察により介入効果や所見、得られた情報を統合していくと、「症例研究」となります。

臨床で担当症例が増えたり、症例検討に参加したりしていると、治療の効果に「規則性があるのでは？」と気づくことも出てきます。そんなときは、臨床を学術へつなげる取り組みとして、症例報告からさらに発展させてみましょう。

4 ページ

学会発表 成果を人に伝え、意見交換する

症例研究をまとめたとき、それを発表する場として「学会」があります。

さまざまな学会が開催されているので、自分の研究が応募できるものを探してみましょう。通常、ポスター発表と口述発表の2種類があります。どちらがよいか、どのように準備をするかなど、周りのかたに助言をもらおうとよいでしょう。

発表後の質疑応答・意見交換によるフィードバックは、さらに研究を進める機会となるはずです。また、施設の外まで活動の場を広げることは、理学療法士としての自分を大きく成長させてくれることでしょう。

Q 学会発表するのに、どの学会を選べばよい？

A まずは都道府県理学療法士会・ブロック学会を選ぶと、距離も近く、身近な仲間とのつながりもできるのでよいかもしれません。自分が取り組みたい専門分野が定まってきたら、研究内容に合わせてその分野の学会を選ぶのもあり！

全国各地で開催されるため、旅費はかかりますが、専門ならではの研究にふれることがで

き、関心が近い仲間とも出合いやすくなります。

Q 口述発表とポスター発表はどちらがよい？

A どちらがよいかは、それぞれの特徴を踏まえて検討しましょう。口述発表は、一度に多くのかたに発信できます。一方、時間が限られるので発表、質疑応答が十分にできない場合もあります。ポスター発表は、内容をじっくり見てもらうことができ、質疑応答の時間も確保されていますが、ポスターを事前に印刷する必要があり、準備期間が相対的に短くなります。

学会参加 さまざまな研究に触れ、つながりを広げる

学会には発表者でなくても、研究成果を知るために参加する人も多くいます。興味のある発表を聞き、質問をすることも臨床につながる学術活動です。

さらに研究へ取り組んでいきたいときは

専門領域の学会や海外の学会も視野に入れよう

ハードルが高いと感じるかもしれませんが、専門領域の学会にはレベルの高い研究が集まりやすく、発表者としても参加者としても得られるものが多いといえます。また、海外の学会の場合、英語で行うため海外の理学療法士にとっての言語の壁がなくなり、より多くの人に届けられます。

論文文化して投稿しよう

研究を発表する場として、論文にまとめ学術誌に投稿する方法もあります。査読により厳密なチェックが行われるため、リジェクト（掲載拒否）されることも多く、アクセプト（掲載）までに修正が何度も求められることもあります。その分、内容に対する信用は高くなります。

認定理学療法士・専門理学療法士としての資質醸成にもつながる

臨床に学術的姿勢を取り入れることは、登録理学療法士取得後のステップアップである「認定理学療法士・専門理学療法士」の取得にもつながります。

5 ページ

研究してみたい PT からの質問に答えます！

Q 学会と研修会の違いは？

A 学会では、主に研究発表や最新の知見共有など学術の追究が中心となります。研修会では、実践的な知識や技術に関する内容が中心で、スキルアップに重点を置いています。

Q 学会に参加する条件は？

A 学会ごとに異なるのでホームページなどで確認しましょう。日本理学療法学会連合に所属する団体の場合、本会会員価格での参加が可能となります。なお、学術は自己研鑽の場なので、発表者も参加登録をして参加費を支払う必要があります。参加登録をせずに来場されるかたがたまにいるようなのでご注意ください！

Q 研究者でなければ学会は意味がないのでは？

A 理学療法の学術は、臨床と切り離されたものではありません。日々の臨床で感じる疑問を整理し、他施設の実践や研究成果とてらしあわせることで、自身の臨床をより深く考えるために参加している理学療法士も多くいます。

Q 社会にインパクトを与えない研究に意味がある？

A 理学療法の研究は、特別なデータから始まるものばかりではなく、画期的な発見ができるような研究もそう多くはありません。それでも研究を続けるのは、日々の症例を丁寧に振り返り、共通点や違いをげんごかすることが、臨床の質を高める大切な研究の第一歩となるからです。そして、それがいつか未来の大きな成果につながるかもしれません！

協会の学術と学会連合の学術について

本会は創立時から理学療法士が構成する学術団体として活動してきました。しかし、医療・介護分野において、科学性やエビデンスが強く求められる時代となったことを受けて、2021年4月に設立された一般社団法人日本理学療法学会連合に学術機能を一部移管し、その会員団体（法人学会会員17団体、学術団体会員3団体）とともに研究活動をさらに充実させ、その成果をもとに理学療法の標準化や政策提言のためのデータ作りにあたっています。協会では2023年に新たに「日本理学療法士協会雑誌 Up to Date」を創刊し、臨床に直結する学術の普及に取り組んでいます。

URL：<https://www.japanpt.or.jp/privilege/lifelonglearning/uptodate/>

6 ページ

臨床で働きながら、一步を踏み出す

実際に働きながら学術活動に取り組んでいる4名の本会会員からメッセージをいただきました。

興味のあるテーマがありましたら、ぜひ参考にしてください。

学会参加

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 成人療法課

高見 ゆきさん

私は、臨床2年目の時に2024年6月に渋谷で開催された第61回日本リハビリテーション医学会学術集会に参加しました。参加目的は、自分の考えを整理し、臨床の可能性を広げることでした。本学会では、現地参加者は4,000人を超え、渋谷の街全体を会場とした前例のない形式で開催し、大会テーマ「病気を診ずして病人を診よ」の下、多岐にわたる内容の教育講演が開催され、若手療法士の私にとっては非常に刺激的な学びの場となりました。自身のポスター発表では、他施設の先生がたと議論することで自分の理解を深めることができ、貴重な経験となりました。

加えて、最先端技術に関する知見を多く得ることができました。特にVRを用いたデバイスや使用効果に関する講義は、当院に導入されている機器を臨床で提供する際の一助となると感じました。さらに、AI技術の急速な進展という予想外の気づきもありました。歩行分析アプリなどの進化を目の当たりにし、テクノロジーの便利さに感銘を受ける一方で、AIにとって代わられないよう、自らの評価技術や知見を磨き続ける重要性を再認識しました。

本学会で得た、基礎から最新技術に至るまでの多くの学びは、私の療法士としての礎となっています。これからも続くキャリアのなかで非常に良いタイミングでの参加であったと確信しています。この経験を日々の臨床に還元していきたいと今も思っています。

症例発表

特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター

在宅サービス部 健康スタジオ加賀温泉駅前

ふるかわ まどかさん

今回生活期における支援を振り返るため、東海北陸理学療法学会にて症例発表をおこな

いました。対象は人工股関節全置換術（THA）術後のかたで、総合事業の短期集中予防サービスを利用し、支援期間を通して地域での活動・参加が拡大した症例です。

生活期のリハビリテーションでは活動や参加の内容に個別性が高く、評価が曖昧になり定量化できていないという課題を感じていました。本症例を通して、自身の判断の過程を振り返り、支援内容を整理・言語化することを目的にまとめました。もともと学術的な文章作成は得意ではなく、抄録を作成する際に評価内容などの情報の取捨選択に苦慮しました。上司からは話の筋道を立てた上で必要な評価を選択するよう助言を受け、内容を簡潔で伝わりやすく整理することを意識して作成しました。

発表ではサービス内容に関する基本的な質問が寄せられ、本症例に対する質問が少なかったことから、参加者に十分に伝わるようなポスター作成や説明の工夫の必要性にも気づきました。

今回の症例発表を通して、個別性の高い活動や参加を整理・構造化して伝えることで日々の支援にも客観性を持たせられるようになりました。その後の症例でも目標に向けた段階的なステップを定量的に示し実践することで小さな成功体験を積み重ね、本人の自信につながられることを感じています。今後も日々の支援を振り返り整理し、より質の高い生活期のリハビリテーションにつなげていきたいと考えています。

7 ページ

学会発表（ポスター）

医療法人成春会 北習志野花輪病院 リハビリテーション科

わたべ 歩美さん

私は運動器リハビリテーションの分野であり、特に人工膝関節全置換術（TKA）後の運動機能をテーマに研究を続けています。近年、在院日数の短縮と早期の日常生活復帰が求められるなか、限られた期間で最大限の回復を目指すためには、標準プロトコルに加えて、効果的かつ効率的な個別化理学療法の実立が重要だと考えます。臨床で実態を把握するなかで、「どのように改善していくか、回復の見通しを少しでも予測できないか」といった疑問や課題が生まれ、検証を開始しました。その知見が患者さんへの介入の一助になればと思い、第13回日本運動器理学療法学会学術大会での発表に至りました。

発表当日まで共同演者の先生がオンライン指導してくださり、準備の段階で不安で立ち止まりそうなどきの大きな支えになりました。私は今回の発表に限らず、他施設の先生がたから統計解析の面でも助言をいただき、研究を形にするための視点や考えかたを学ぶ機会に恵まれています。学術活動を一人で継続することは難しいですが、同じ疑問に向き合い、協働して支えてくれる仲間がいるからこそ、私も挑戦を続けようと思います。

今後は、術後の回復が遅れそうなかたを早めに見つけ、その人に合ったりハビリにつなげることを目指しています。今回の発表で学会発表はゴールではなく、臨床で生まれた疑問を検証し、結果を共有するプロセスそのものが大切であると実感しました。

院への進学（仕事との両立）

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

武藤 けんとうさん

私は、「自分の手で研究を推し進める力を身に付けたい」と思い、大学院への進学を決めました。進学前から学会発表の経験はありましたが、周囲のかたの助言に頼る場面も多く、どこか不甲斐なさを感じていました。そのため自分自身で考え、形にできる力を身に付けたいと考えたことがきっかけです。

大学院に進学して良かったと感じたことは、これまで関わることのなかった分野の研究に触れられることです。他の院生の研究テーマは多岐にわたるため、新たな視点や発想を得ることができます。そのような学びが自身の研究を多角的に捉えることにつながっていると感じます。また研究が行き詰まった際、指導教員の先生にいつでも相談できる環境があることは、大きな安心感があります。

仕事と学業の両立のため、進学先を決める段階からオンラインで授業を受講できるかどうかを重視しました。帰宅がまに合わない日は職場で受講することもあり、職場の理解と協力に感謝しています。また私は二児の父であり、家庭との両立も欠かせません。家族の時間を大切にしつつ勉強や研究活動の時間を確保できるよう、家族と何度も話し合いを重ね、無理のない生活リズムを決めていきました。

今後は大学院で得た学びを活かし、社会に還元できる質の高い研究を積極的に発信していきたいと考えています。また、後輩セラピストへの学術的な指導など、所属施設での教育にも力を注いでいきたいと考えています。

8 ページ

研究のスペシャリストが選ぶ最先端の研究

優秀論文に選ばれたものなどを中心に5つの分野から研究論文をピックアップし、筆頭著者にわかりやすく紹介してもらいました。興味のある論文はぜひ掲載されているウェブページにアクセスしてみてください。

運動器

ようぶ脊柱管狭窄症患者に対するきんりよく強化・有酸素運動の併用による効果

—た機関共同無作為化比較試験—

我汝会えにわ病院 リハビリテーション科

石田 かずひろさん

ようぶ脊柱管狭窄症（LSS）患者に対し、ストレッチのみの運動と、ストレッチにきんりよく強化・有酸素運動を加えた運動の効果を、た機関共同研究として検討しました。本研究は、LSS 患者 63 名を 2 群へ無作為に割り付け、2 ヶ月間、週 1 回の通院指導と自宅での運動を行いました。腰痛や下肢症状、日常生活の支障、生活の質を評価した結果、きんりよく強化・有酸素運動を追加しても、ストレッチ単独と比べて明らかな優位性は認められませんでした。一方で、両群ともに腰痛やしびれ、LSS 症状はけいじてきに改善し、運動介入そのものに一定のりんしょうてき意義が示唆されました。本報告は、LSS に対する運動療法をた機関で検討した数少ない研究の一つです。全国規模で実施された点は、本邦における運動療法の実践において、参考となるデータになると考えられます。今後は、LSS 患者の状態に応じた運動内容の違いが、治療効果にどのように影響するのかを検討する必要があります。

理学療法学 第 51 かん 4 号（2024 年 8 月 20 日発行）

<https://doi.org/10.15063/rigaku.12492>

循環器

入院関連機能障害は経カテーテル的大動脈弁留置術施行 1 年後のフレイル進行の予測因子である

大阪公立大学医学部附属病院 清水 まさしさん

近年、本邦では高齢の大動脈弁狭窄症患者に対する経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）の実施件数が増加しており、大動脈弁狭窄症患者の生命予後の改善に寄与しています。一方で、退院後の生活の実態や、それに関連する因子に関する調査は十分とはいえません。そこで我々は、TAVI 施行前と施行 1 年後のフレイルの実態を調査し、フレイル進行に関連する因子を検討しました。その結果、対象者の 37.1%にフレイルの進行を認め、術前より術後に ADL が低下する「入院関連機能障害」の発生が、TAVI 施行 1 年後のフレイル進行の独立因子であることが明らかになりました。これらの結果より、TAVI 施行患者の中長期的なフレイル進行を防ぐためには、術後早期からリハビリを開始し、積極的な運動療法によって ADL を維持する必要があります。本研究は、術後における理学療法

士の介入の重要性を示す結果になったと考えます。

循環器理学療法学 第3 かん1号 (2024年3月31日発行)

https://doi.org/10.69168/jcpt.3.1_1

管理

リハビリテーション従事者における働きがいに関連する要因

ー日本語版ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度を用いた調査ー

脳神経筋センターよしみず病院 宇野 健太郎さん

働きかた改革の推進により、効率的かつ生産性の高い人材育成が求められている一方、リハビリテーション従事者における人材育成に関する知見は十分とはいえません。近年、仕事に関連したポジティブで充実した心理状態を示す概念としてワーク・エンゲイジメント (WE) が注目されています。WE の高い従業員は活力に満ち、仕事に積極的に関与するとされています。本研究では、リハ従事者の WE を高める要因を明らかにすることで、効率的な人材育成への示唆を得ることを目的としました。対象は当会リハ部スタッフ 171 名とし、作成した 13 項目の無記名アンケートおよびワーク・エンゲイジメント尺度(UWES)を用いて WE に影響を与える要因を検証しました。回帰分析の結果、「健康・プライベートへの配慮」、「貢献できる仕事」、「仕事を通じた成長」が WE に影響する要因として示唆されました。今後は、この要因に対しどのように働きかけていくかを検討する必要があります。

理学療法管理学 第2 かん(2024年3月29日発行)

<https://www.jspt.or.jp/kanri/journal/vol2/>

9 ページ

神経 英語論文

潜在ランク理論を用いた亜急性期脳卒中患者における Berg Balance Scale によるバランス機能の段階分け

太田医療技術専門学校 田村 俊太郎さん

亜急性期脳卒中患者を対象に、Berg Balance Scale (BBS) を用いてバランス機能障害のランク分けを行いました。ランク分けには、潜在ランク理論というテスト理論を使用し、バランス機能障害のランクとともに、各ランクにおける BBS 下位項目の特徴を明らかにしました。その結果、BBS によるバランス機能障害の重症度は 6 段階にランク分けされまし

た。

BBS は広く使用されている評価指標ですが、評価結果を介入内容へどのように反映させるかというプロセスは提示されていませんでした。そのため、対象者のバランス機能障害のランクを把握し、そのランクにおける BBS 下位項目の特徴とてらしあわせることで、対象者に特有の問題点を明らかにすることが可能となります。また、より上位のランクへ改善するために、どの BBS 下位項目が鍵となるかを把握することができます。

本研究は、臨床家がバランス機能障害に対する治療を行う際の臨床意思決定の一助となると考えられます。今後は、このランク分けを活用した介入の効果検証を行うことが望まれます。

Physical Therapy Research 第 27 かん 2 号 (2024 年 8 月 20 日発行)

<https://doi.org/10.1298/ptr.E10282>

ビッグデータ 英語論文

認知症の有無にかかわらず股関節骨折手術後の仮想的な早期集中入院リハビリテーションと日常生活動作との関連性：

医療保険請求データを用いたランダム化比較試験のエミュレーション

山形大学医学部医療政策学講座 池田 登顕さん

本研究は、大腿こつきいぶ骨折術後の 50 歳以上の入院患者を対象に、早期かつ集中的な院内リハビリテーションが日常生活動作 (ADL) の回復に与える影響を、認知症の有無別に検討した研究です。全国 925 病院の診療報酬データを用い、手術後 2 日以内に開始される複数のリハビリ強度・開始時期を想定した介入を、ターゲットトリアルエミュレーションにより比較しました。その結果、特に徐々に運動量を増やすリハビリ介入は、術後 30 日での ADL 回復と有意に関連し、その効果は認知症患者でより顕著でした。これらの結果は、画一的な早期リハビリではなく、患者特性に応じたリハビリ強度設計の重要性を示唆しています。今後は、た職種介入の内容や回復期以降の長期アウトカムを含めた検証が期待されます。

Journal of Clinical Epidemiology (2024 年 10 月 5 日公開)

<https://doi.org/10.1016/j.jclinepi.2024.111550>

学会・研究会の学術誌紹介

日本理学療法学会連合より、会員団体である学会・研究会の学術誌をご紹介します。

ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法 運動器理学療法学 栄養嚥下理学療法学会雑

誌 日本がんリンパ浮腫理学療法学会誌 呼吸理学療法学 支援工学理学療法学会誌 基礎理学療法学 小児理学療法学 神経理学療法学 スポーツ理学療法学 精神心理領域理学療法 地域理学療法学 日本糖尿病理学療法学会誌 日本予防理学療法学会誌 理学療法教育 産業保健理学療法学

年1～2号の発刊で、発行元の学会・研究会のホームページで閲覧可能です。

また、一部の学術誌はJ-stageにも掲載されています。

学術論文にもっと触れてみたいと思ったかたはぜひアクセスしてみてください！

各学会・研究会ホームページは、日本理学療法学会連合ホームページメニューの「法人学会・研究会」の一覧から <https://www.jspt.or.jp/>

10 ページ

日本理学療法学会連合からのご案内

第1回日本理学療法学会連合学術総会開催！！

理学療法の英知の結集と未来への懸け橋

日本に理学療法士が誕生して2026年で満60年を迎えます。この間、医療専門職として社会に認められ、医療に貢献することが重要な使命でした。また、そのためには学術的な裏付けのもとに理学療法が実践されることが必要であったことはいまでもありません。創成期には、環境は決して恵まれていないなかで、先達たちが研究活動に力を入れ、多くの学術大会を開催して研鑽を重ねてきたことが、現在の発展につながっていることは間違いのない事実です。この歴史を踏まえ、総勢20法人学会・研究会の英知を集約し、未来の発展につなげようという意図を、テーマに込めました。

日時 2026年7月24日（金）～26日（日） みっかかん！

会場 札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）（対面・オンデマンド）

大会ホームページ：<https://www.gakkai.co.jp/jspt1/>

■参加登録費

参加費区分

対面参加（事前登録） 日本理学療法士協会会員 13,000円

対面参加（当日登録） 日本理学療法士協会会員 15,000円

オンデマンド参加（事前登録） 日本理学療法士協会会員 13,000 円
協会員デイパス [7月24日のみ] 対面参加（当日登録） 8,000 円
協会員デイパス [7月25日のみ] 対面参加（当日登録） 9,000 円
協会員デイパス [7月26日のみ] 対面参加（当日登録） 7,000 円
対面参加（事前登録） 非協会員 理学療法士 38,000 円
対面参加（当日登録） 非協会員 理学療法士 40,000 円
対面参加（事前登録） 非協会員 他職種 13,000 円
対面参加（当日登録） 非協会員 他職種 15,000 円
対面参加（当日登録） 非協会員 学生 無料

■事前参加登録受付（予定）

口座振替：2026年6月15日（月）まで

クレジットカード：2026年7月16日（木）まで

■生涯学習制度の履修付与について

学会参加※1につき、参加日数にかかわらず、以下の履修付与がなされます。

参加費区分

登録理学療法士更新

区分 1-1：プロフェッショナリズム

（ポイント）※2

事前登録・当日登録 24

協会員デイパス[7月24日のみ] 9

協会員デイパス[7月25日のみ] 9.5

協会員デイパス[7月26日のみ] 5.5

認定/専門理学療法士更新

学術大会

（点）

事前登録・当日登録 24

協会員デイパス[7月24日のみ] 9

協会員デイパス[7月25日のみ] 9.5

協会員デイパス[7月26日のみ] 5.5

※1 個別プログラムを対面参加することにより、別で最大10.5ポイント/点取得可能

※2 同じカリキュラムコードを取得済みで、ポイントが高い場合は上書きされます。

詳細は学術総会ホームページをご覧ください

日本理学療法学会連合とは

2021年4月に12法人学会と8研究会を会員として設立。現在は17法人学会と3研究会という体制で、理学療法学の発展に寄与すべく活動を続けています。

学会ホームページ：

<https://www.jspt.or.jp/>

みどころ

2つの柱を立て、テーマに沿った議論を展開する予定です。

1つめの柱 これからの理学療法学の発展の礎を築くために、現時点での理学

療法学の定義を整える

理学療法士が考える健康、理学療法モデルの現在、治療学およびリハビリテーション医療に資する研究について

特別講演2題、特別企画シンポジウム4題のプログラムを準備しています。

2つめの柱 学問の専門化に沿った最先端の研究成果を共有する

本総会によって創設する学会連合基礎研究学術賞および臨床研究学術賞の記念講演を皮切りに、学会企画講演80題、合同シンポジウム20題を揃え、参加者のみなさんの興味・関心にあわせて、網羅的に情報を提供します。

本邦における理学療法研究のトップランナーが講師として顔を揃える、理学療法の科学的知見の現在地を確認する絶好の機会！

○がっかい連合版としゅ筋力検査法および 関節可動域評価指針のライブデモンストレーションも行う予定です。

○最終日に、総会での内容を総合シンポジウムでまとめ、第1回学術総会宣言を発表します。

大会長メッセージ

藤澤 宏幸さん 一般社団法人日本理学療法学会連合 理事長

私が生まれたのは1967年1月であり、学年は丙午（1966年）生まれの仲間と同じだったので、私は自分の人生と理学療法の歩みを重ね合わせて考えるようになりました。その私も還暦（60歳）を迎えようとしています。孔子は60歳を「じじゅん」と称しました。他人の意見や批判を素直に受け入れ、「理」がわかるようになる年齢ということです。江戸時代の朱子学者である、かまたりゅうおうは「理学秘訣」に“氣ト理”について書いており、“氣”とは形のある物であり（形而下）、“理”は形のない物事の筋道（形而上）であると述べています。氣（物）のもとに、理があらわれるのであり、それは物理に通じます。さらに、心の理は「心理」、生き物の理は「生理」であり、その体系が「理学」というわけです。その理学を冠した治療法としての理学療法が60歳を迎えたのですから、他分野からの批判に耳を傾け、知見を融合させることで、学問としての理学療法を体系化する時期に来ているように思います。本総会では、理学療法学の定義をみんなで議論し、これからの時代の礎にしたいと願っています。そのために会期をみっかかんとし、十分な時間を設けました。また、みなさんが都合にあわせて参加できるように、デイパスも用意しています。是非、この歴史的瞬間を共に過ごしませんか。札幌でお待ちしております。

12 ページ

トップメッセージ

2026年4月

会長 斉藤 秀之

日常診療を学術へー理学療法士の探究しんが未来をひらくー

本号のテーマは「学術」です。学術と聞くと、研究室や大学で行われる特別な活動、あるいは資格取得前の勉強の延長と捉えられがちですが、理学療法士にとっての学術は決してそれだけにとどまりません。学術は私たちの職能を支える重要な基盤であり、日々の臨床実践そのものと深く結びついています。目の前の患者・利用者により良い支援を届けた

いという思いから生まれる「なぜだろう」「もっと良くできないか」という問いこそが、学術の出発点です。

患者・利用者は最良の教師であり、注意深い観察は臨床研究の第一条件です。予期しない変化や例外を見逃さず、偶然の発見を大切にする姿勢が、新たな知見の芽となります。こうした気づきを振り返り、文献にあたり、知識の裏付けを得て、先輩や同僚との討論・対話を重ねることは、臨床を「研究化」するための大切なプロセスです。読書は臨床研究の宝の山であり、議論と対話は探究しんを刺激し、次の一步を後押しします。

繰り返しになりますが、臨床での気づきを振り返り、文献を参照し、同僚と議論し、その成果を共有する一連の営みはすべて学術活動であり、決して特別な人だけのものではありません。若手理学療法士にとっても、学術は遠い存在ではなく、日々の臨床のなかに自然に位置づく実践的な取り組みです。小さな疑問や工夫の積み重ねが、やがて知見として社会に還元され、次の世代の理学療法を形づくっていきます。

さらに重要なのは、臨床家自らが意図的・定期的・計画的にデータを蓄積し、エビデンスを「活用する側」から「創り出す側」へと歩みを進める志を持つことです。臨床の現場には研究課題が満ちており、それに向き合うことは医療者としての責務でもあります。そこには常に科学的理由と倫理的理由が求められますが、その積み重ねこそが専門職としての信頼を高め、社会への責任を果たす道となります。

日常診療そのものを「研究化」する心構えを持つこと。それが、理学療法の未来を切り拓く原動力になると確信しています。

13 ページ

新連載 未来のために！一人ひとりのアドボカシー活動

このコラムでは、協会のアドボカシー活動をみなさんに紹介していきます。

アドボカシー活動とは「特定の立場や課題について、社会や意思決定者に働きかけ、理解・支持・制度的な改善を促す活動」とされています。「初めて聞いた」「知っているけれど、自分には関係ない」というかたも多くいらっしゃるかもしれません。アドボカシー活動は本会のみならず、都道府県の理学療法士会、理学療法士連盟など多方面からの働きかけ、そして、一人ひとりの理解と行動が不可欠です。理学療法士の明るい未来を創造するために、一緒に活動していきましょう。

第1回リハ職の賃上げ

「スタッフの給与を上げてあげたい」「理学療法士は給与が安くて将来が不安」などの声や課題に対し、本会では賃上げを実現できるよう、国会議員や厚生労働省に対して、粘り強く要望を続けてきました。

その成果の一つが、令和6年度診療報酬改定で導入された「ベースアップ評価料」です。さらに、令和7年度補正予算ならびに令和8年度診療報酬改定、介護・障害福祉サービスにおいても、令和8年度中に「きちゅう改定」が予定されており、これらにおいて理学療法士を含む医療従事者の賃上げのための予算が確保されました。ただし、実際の給与へ反映されるかは各施設に委ねられているため、みなさまは、自施設の算定状況や給与規程への反映をご確認ください。

〈参考資料〉

賃上げに向けた本会活動（2025年12月22日 JPTA NEWS on-line）

https://www.japanpt.or.jp/info/20251222_732.html

次回以降もアドボカシー活動について、できるだけわかりやすく解説していきます。

未来を拓く！理学療法士と政治活動

国政や地方議会で活躍する理学療法士や、連盟を含めいろいろな形で政治活動をおこなっている理学療法士に登場いただき、業界を取り巻く様々な課題やその解決に向けた取り組みを紹介いただきます。

小川克巳

1951年8月31日、福岡県北九州市生まれ。理学療法士として病院勤務後、1981年4月熊本リハビリテーション学院開校に伴い専任講師に就任。以降33年にわたって理学療法士養成教育にあたる。熊本県理学療法士協会会長、日本理学療法士協会理事・副会長を歴任。2016年参議院議員初当選。厚生労働委員長。2025年1月参議院議員繰上当選。2期目。

本年2月に実施された総選挙において、自民党は過半数どころか2/3を越す316議席を獲得しました。比例当選枠を吐き出さずにすれば330議席を獲得するという大圧勝です。言うまでもなく就任3ヶ月間の高市早苗総理の決然たる政策が国民の高い支持を得たあかしです。懸念された診療報酬改定率も3.09%という30年ぶりの高改定率となり、私自身

も、疲弊しきっていた医療・介護・福祉の世界にようやく一筋の光が差し込んだ、率直にそう感じました。

ところで、あまり喜んでばかりもいられない事実もあります。こんぱんの診療報酬改定に際するちゅう医協の提言では、周知の方向でもあります。医療は全般に前倒し傾向となり、さらに質を求める文言が多く見られます。回復期リハでも「実績指数」に係る要件の適用拡大などの見直しが盛り込まれています。もっと気になるのは、看護・た職種協働加算の新設です。

こうろう省の説明では、これは急性期病棟において看護師に加え、リハ職・管理栄養士・臨床検査技師などのた職種を病棟に配置することによって、ADL 低下防止、早期経口摂取、在宅復帰支援など、た職種連携による質の高いケアを実現しようとするものですが、その背景には欠乏する看護従事者の補完という狙いが隠されているとも感じます。もとより病棟配置は我々の希望でもあります。その譲れない前提は、あくまでそれぞれの専門性に則った協働であるということであり、然るべき対応をとることが必要だと考えます。

14 ページ

生涯現役

出雲医療生活協同組合 在宅支援センター

戸山 かすみ さん

1957 年島根県で誕生。1978 年行岡医学技術専門学校卒業。玉造厚生年金病院に勤務。その後、整形外科医院へ。1989 年出雲医療生協法人へにゅう職。法人内の一般病院、リハビリ病院、訪問リハ、デイケアとうとう全てのリハ関連施設を回り、現在は、市の委託を受け、通いの場立ち上げ支援、通いの場継続支援、地域の活性化につながる「出雲いきいき体操」の普及等にも努めている。

地域の一員としての役割

卒業後初めての勤務先では、四肢の切断やせき損、人工関節など整形部門のことをたくさん学び、また、現在の通いの場の先駆け的なこともさせてもらい、若いうちにしかできない充実した年月を過ごしました。次の職場は、1 人職場で、そのころ珍しい（ほとんどボランティアみたいな）訪問リハもさせてもらい、回復期リハを立ち上げ、どんどん人員を増やして 100 人を超えるセラピスト集団ができました。やりたい放題させてもらい、次は、地域住民の健康を守るリハビリへどっぷり。出雲市からの委託で各地域に「通いの場」を立ち上げました。これは 3 か月毎週 1 回支援に行き、その後、自立していってもら

うという事業です。今や私もそのなかに混じっていくお年頃ですが、まだまだ現役でいるため、また、今後も心身ともに元気であるための土台作りと思い、「通いの場」の継続支援も頑張っています。職場の理解もなければなかなかできないことなので本当にありがたいです。積極的なリハビリ治療から地域のなかでいかせるリハビリへの移行ですが、一貫した「思い」は、何か役に立ちたい、でした。言葉にすると青くさくて恥ずかしいのですが、この年までこの仕事が続けられた原点かな。若い頃は、先輩達に助けられ、年が行けば、後輩達に支えられ、本当に人に恵まれた職場でした。まるでもう終わりのような感じですが、まだまだ終われません。余談ですが、自分の元気を維持するため、若い頃からバレーボール（硬いボールですよ）、50歳代でマラソン、60歳代で登山を始め、今も続けています。県外のバレーボール大会遠征で最高年齢は88歳のかただったので、私も目指したいと思っています。富士山登山はまだ足が動くうちにと、一昨年登頂。ホノルルフルマラソンも死ぬまでに達成したいという気持ちが強くなり、思い切って去年12月に挑戦し、完走できました。年取ってからのほうがチャレンジできることが多くなったような気がします。仕事も、趣味もまだバリバリで頑張りたいです。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍する先達から会員のみなさまへのメッセージを募集しております。

お問い合わせ先：JPTA NEWS 担当

news@japanpt.or.jp

コツコツ学ぼう！登録理学療法士 更新ポイント問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得方法の一つに、JPTA NEWS の問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます。登録理学療法士のかたは、更新資料をご確認のうえ、以下の方法からチャレンジしてみてください。

〈紙冊子を閲覧している場合〉

会員専用アプリでQRコードを読み取ってください。申込期限は「6月19日」です。

〈QRコード読取ができない場合〉（WEB上で閲覧している場合など）

マイページから、セミナー番号で検索してください。（セミナー番号：152638）、申込期限は「6月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

カリキュラムコード 121 小児の疾患

解答期限は6月19日まで

登録理学療法士制度の概要はこちら

<https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>

コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問合せは、本会ホームページ FAQ からお願いいたします。

15 ページ

INFORMATION

会員数 144,943 名 2026 年 3 月 31 日現在※休会者含む

ご登録内容に変更が生じた場合は、日本理学療法士協会（以下、本会）ホームページ内の【マイページ】へログインし、Web 申請にて各種手続きをお願いいたします。トラブル防止のため、電話・メール・FAX による各種申請は受け付けておりません。

〈参考 URL〉 <https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/>

マイページのご利用について

ログイン ID パスワード (PW) の再発行

マイページへログインできない場合は、マイページログイン画面下の「ログインできないかたはこちら」より、ID・PW の再発行申請をお願いします。(注) お電話による ID・PW のご照会はおこなっておりません。

<https://www.japanpt.or.jp/inquiry/faq/mypage/system20002.html>

会員マイページ専用アプリのご案内

本会では、会員マイページ専用アプリを提供しています。専用アプリでは、マイページへのオートログインや QR コード読取機能による研修会参加受付が可能になるほか、協会・士会からのお知らせがプッシュ通知で受信できます。ぜひ、アプリをダウンロードのうえ、ご活用ください。

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/newsystem/>

年会割引制度について

本会では、「育児休業」・「シニア」・「海外会員」について年会費の割引制度を設けております。

本会ホームページにて申請条件をご確認のうえ、対象となるかたはマイページからお手続きください。

※申請された翌年度の年会費に割引が適用されます。（～2/20まで）

理学療法士のかた向けサイト > 協会からのお知らせ > 各種手続き > 年会費割引制度申請

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/06/>

クラブオフ 今回のおすすめ！

当日予約も大丈夫！ニッポンレンタカーおでかけ優待プラン

レンタカー基本料金より

17%~41%OFF

(24時間利用時比較)

※他の割引との併用不可

ご利用の際には、「日本理学療法士協会 クラブオフ」へ登録・ログインください。

◎その他サービスの詳細は Web で検索

理学療法士 クラブオフ

協会運営に関するご案内

●2026年3月7日(土)に2025年度第8回理事会が開催され、同年4月4日(土)に2026年度第1回理事懇談会・

理事会、4月5日(日)に組織運営協議会が開催されました。理事会抄録については、会員限定コンテンツよりご覧ください。

会員限定コンテンツ > 協会運営・資料一覧 > 総会・理事会等資料

<https://www.japanpt.or.jp/privilege/management/minutes/#title02>

●今後の予定 ・2026年5月10日(日)：2026年度第2回理事会 ・2026年6月6日(土)、7日(日)：第55回定時総会

異動申請について

所属施設・自宅住所の変更等の会員登録内容の変更は、本会ホームページの手続案内をご確認のうえ、マイページからお手続きください。

※施設情報の変更は、施設会員代表者または施設会員代表者代理に割り当てられたかたが

おこなってください

(【マイページ】▶【登録内容の変更・確認】▶【施設情報管理】)

※海外会員に登録される場合は、会費の支払い方法について確認させていただきますので、事前に本会事務局へご連絡ください。

理学療法士のかた向けサイト>各種手続き>協会からのお知らせ>勤務先・自宅住所・氏名等の変更

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/01/>

休会・復会・退会申請について

会員区分の変更は、本会ホームページにて各種手続きをご確認のうえ、マイページからお手続きください。

※休会を継続する場合、1年ごとの申請が必要です。申請受付期間（1月1日～3月31日）にご申請ください。

手続きがない場合は規定により退会となります。

※休会制度につきましては、2027年度以降、運用の変更を予定しております。詳細はHP等でお知らせいたします。

※退会后、生涯学習履歴・取得資格は無効になります。また、納入済みの当年度年会費はご返金いたしかねます。

休会中、退会后は、以下の権利が停止となります。

- 各種研修会・学会等への会員価格での参加
(非会員理学療法士と同様の対応となります)
 - 各種学会への無料での演題登録
 - 会報誌「JPTA NEWS」の発送
 - 理学療法士賠償責任保険への加入（全員加入・任意加入）
 - 福利厚生サービス「クラブオフ」の利用など
 - 役員候補者選挙および代議員選挙の選挙権、被選挙権
- 理学療法士のかた向けサイト>協会からのお知らせ 各種手続き

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/>

マイページ>本人情報の確認・更新>登録内容の変更・確認

<https://mypage.japanpt.or.jp/mypage/member/dataChange/confirm>

※Web環境がない場合、手続きについては本会事務局（TEL：03-6804-1421）へお問い合わせください。

HOT TOPICS

重要 休会制度の運用変更について

この度、休会中の会員においても、会員情報の管理やシステム維持、各種手続きなどに費用が継続して発生していることから、会員間の負担の公平性を確保するため、2027年度以降の休会申請より、休会制度の運用を一部見直すことといたしました。

<https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/02/>

■休会手数料について

休会登録に伴う事務手続き、会員情報の維持管理等に係る費用の一部として、休会申請ごと（年度ごと）に1,000円（税別）を徴収いたします。

■次年度休会申請の受付および手続きについて

休会中のかたが所定の期間（1月1日～2月20日）に休会申請をされない場合、自動的に復会手続きをさせていただきます。年会費を請求後、4月より在会会員としてのお取り扱いとなります。

【休会手数料の請求および申請受理】

- ・休会手数料（1,000円（税別））は、2027年2月21日以降、順次請求いたします。
- ・休会手数料の納入をもって、休会申請の完了となります。

[理学療法士のかた向けトップページ](#)>[各種手続き休会申請](#)> [協会からのお知らせ](#) >変更点

本制度の運用は、2027年4月1日からの実施を予定しております。

変更内容の詳細は、協会HPをご確認ください。

第61回日本理学療法学術研修大会 申込受付ちゅう！！

第61回日本理学療法学術研修大会 in 福岡が開催されます！

大会テーマは「選ばれる職種」です。プログラム・事前参加登録等詳細は下記大会HPから。

〈日時〉

2026年5月23日（土）～24日（日）

※大会終了後にオンデマンド配信あり

（履修付与対象）

〈会場〉福岡県国際会議場

〈参加費〉2日間参加：12,000円

1日間参加：8,000円

〈事前参加登録受付期間〉5月6日（水）

（マイページ支払方法がクレジットカード払いのかた）

※当日申込はございません。

大会ホームページ

<https://smartconf.jp/content/nichiken61/>

会員手帳を発行しました！

協会HPについて、どこにどのような情報があるかわからないとのご意見を受けて、各種コンテンツにアクセスしやすくなるためのツールとして、会員手帳を発行しました。

PDFでのご提供のみとなりますので、必要に応じて印刷してご活用ください。

理学療法士のかた向けトップページ>会員向けサービス>協会からのお知らせ>会員手帳

https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/for_members_service/techo/

アジア西太平洋（AWP）地区学会開催せまる

2026年9月26日（土）～27日（日）にインドで開催されるAWP地区学会について、公式HPがリニューアルされ参加費（支払方法含む）について変更が生じています。それに伴い、本会ホームページも更新しています。以下のページをご確認ください。

理学療法士のかた向けトップページ > 国際事業 > 関連団体

<https://www.japanpt.or.jp/pt/international/organization/#a5>

お悔やみ

本会の第七代会長を務められた中屋久長氏をご永眠されました。本会の発展に多大な貢献をしてくださった先達のご冥福を会員のみなさんにもお祈りいただけましたら幸いです。

本会ホームページに斉藤会長の追悼文を掲載しております。

https://www.japanpt.or.jp/info/20260318_864.html

マイページ（会員限定コンテンツ）へのアクセスはこちらから

※会報誌バックナンバーもご覧いただけます。

※紙媒体の会報誌が届いていないかたはホームページお問合せよりご連絡ください。

<https://www.japanpt.or.jp/privilege/topics/backnumber/>

会員限定コンテンツ > JPTA-Topics > バックナンバー

公益社団法人 日本理学療法士協会会報誌 号数：No.360

発行日：2026年4月20日

発行人：公益社団法人 日本理学療法士協会

〒106-0032 東京都港区六本木七丁目11番10号

TEL:03-5843-1747 FAX：03-5843-1748 代表：齊藤秀之

編集：日本理学療法士協会 事務局

本会ホームページ：<https://www.japanpt.or.jp>

ホームページやSNSで日々情報発信中！ぜひフォローお願いします！

HP <https://www.japanpt.or.jp>

公式 X <https://x.com/jpta1966>

公式 Facebook <https://www.facebook.com/jpta1966/>

公式 Instagram https://www.instagram.com/jpta_for_members/